

# おひさま ニュース

2015

1月号  
新年号

〒294-0014 千葉県館山市山本1155番地 TEL:0470-25-5111 <http://www.awairyo.jp/>

発行責任者：水谷正彦 編集責任者：大川三喜男



## Change is fun

It's all up to me

社会福祉法人太陽会  
理事長 亀田信介

明けましておめでとうございます。

地域医療の崩壊が叫ばれる中、急性期医療から慢性期、さらには在宅に至る、効率的で質の高い医療、介護のシームレスなサービス提供を目指す「地域包括ケアシステム」の構築が急務となっています。しかし、それには医師、看護師、介護士をはじめとしたスタッフの養成、確保、さらには事業所や法人を超えた人材や情報、高額機器等の有効活用が不可欠です。

現在亀田グループでは、地域の医療機関が希望すれば安価に活用できるクラウド技術を用いた次世代の医療情報システム（電子カルテ）を開発中で、本年中にはシステムがカットオーバーされる予定です。さらに、介護施設や在宅サービスにおいても地域共通の情報システムを活用し、同時に医療情報との連携も図ってゆきます。しかし、従来型の国を頂点とする上意下達、縦割り行政のピラミッド型階層構造では、実践現場の連携は困難です。そこで現在、地域包括ケアの実践現場におけるスムーズな連携を目指し、情報のやりとりやサービスプロセスの規格化（公開仕様書）の作成に取り組んでいます。

霞ヶ関がそれぞれ事情の異なる地域の特性やニーズを理解できるはずはありません。同じように行政に期待したり責任を持たせるこ

とは無意味です。地域の事情を最も良く理解している現場から、高い志を持って新しいシステムを構築してゆくしかありません。安房地域医療センターは、館山市を中心とした地域急性期病院として、また医療・介護のコーディネーター役として頑張っただけでゆきたいと思ひます。

人材養成に関しては昨年、地域で不足する看護師の養成と交差点型社会モデルを目的とした安房医療福祉専門学校が開学いたしました。おかげさまで49名の1期生を迎えることができました。一度社会経験を積んでから、人生の方向転換にチャレンジした社会人学生の割合が4割を占めています。

その学生たちが「Change is fun（変化は楽しい）」というキャッチフレーズを作りました。この考え方こそ、まさに現代社会に求められているものだと思います。この学校はとても小さいかもしれませんが、社会に対しひとつのモデルとして大きな一石を投じる可能性を秘めています。しかし、国家試験合格のための勉強と生活を両立させることは決して容易ではありません。このプロジェクトを成功させるためにも、教職員はもとより、実習病院である安房地域医療センターも全力を挙げ学生たちを教育、サポートしていただきたいと思ひます。時間は限られています。意味のない課題を与えるようなことは決してあってはなりません。学生の立場に立ち、彼らの将来を思い、効率的で効果的な教育を追求してゆかなければなりません。

今年も医療界は何が起こるか解りません。しかし、決して傍観者や評論家になることなく、地域のための社会企業として、チャレンジしてゆきたいと思ひます。

診療科のご紹介	総合診療科	<b>消化器科</b>	循環器科	腎臓内科	糖尿病内分泌内科	神経内科
	小児科	リウマチ・膠原病・アレルギー内科	膠原病内科	呼吸器科	腫瘍内科	リハビリテーション科
	外科	肛門科	整形外科	スポーツ整形	乳腺科	ペインクリニック
	救急科	透析科	泌尿器科	甲状腺外来		

## 消化器科



明けましておめでとうございます。今回は消化器科の紹介をさせていただきます。病院によっては消化器内科と呼ばれている診療科です。

当科の対象疾患は、消化管といわれる食道、胃、大腸や肝臓、胆嚢、胆管、膵臓といった臓器の薬物治療や手術には至らない、内視鏡や超音波を使っての治療可能な病気です。

現在は常勤医2名、後期研修医、初期研修医、非常勤医7名で診療を行っています。

内視鏡検査は、上部消化管内視鏡検査（胃カメラ）と下部消化管内視鏡検査（大腸カメラ）をあわせて年間 5,000 件、内視鏡や腹部超音波装置を用いた治療を年間 550 件行っています。

消化器は人間の臓器の中で、一番範囲が広く、病気の種類も良性から悪性まで様々です。それ故に症状も様々であり、特に救急時

には思いがけない状態になっている場合もありますので、当院外科や亀田総合病院等の県内の三次救急病院※への紹介もしております。

日本の内視鏡検査・治療は世界の中でも優れた実績があり、近年もめざましい進歩をとげています。また、薬物治療においても新しい薬が開発されC型肝炎の治療も従来と比べて格段に治療成績が良くなってきています。

このように新しい治療を患者さまに提供できるようにスタッフ一同、知識や技術の習得に励み、また誠意をもって治療に努めて参ります。今後ともよろしく願いいたします。

※三次救急病院  
入院や手術を要する症例に対する医療(二次救急)では対応できない重篤な疾患や多発外傷に対応する医療機関

あい相 まさと 部長  
相 正人 消化器科



- 日本消化器病学会 専門医
- 日本肝臓学会 専門医
- 日本消化器内視鏡学会 専門医・指導医
- 日本内科学会 認定医
- 日本医師会 認定産業医
- 日本消化管学会 専門医

- 出身地 …………… 千葉県
- 趣味 …………… 映画鑑賞
- 房総の好きな所 …… 海



## 肝炎治療に対する医療費助成制度について



B型・C型肝炎の治療に対するウイルス治療（インターフェロン治療及び核酸アナログ製剤治療）には、医療費助成制度があります。これは、治療を受けやすい環境を整えることで早期治療をすすめる、また、肝炎の重症化や進行を防ぐなどの目的のために実施されています。

この制度を利用するためには、「肝炎治療受給者証」の交付を受ける必要があります。交付申請は、患者さまの住所地管轄の保健所で受け付けています。

## みんなの健康教室

総合診療科 吉田真徳医師

アワ カフェ プロジェクト  
AWA-café project



2014年春より「健康と暮らしと医療」について考えるプロジェクトとして、AWA-café projectを発足しました。この活動は、地域の方々と医療者が健康などについての対話を通してともに学び、健やかな安房地域のまちづくりの一翼を担うことを目的としています。

6月22日(日)には「みんなの健康教室」と題し、ロコモティブシンドローム(様々な原因によってもたらされる体を動かす能力の低下:「健康寿命の短縮」や「寝たきりや要介護状態」の要因)の予防を目的とし、体力測定を行いました。当日は32名の方が参加され、体力測定結果をもとにリハビリスタッフから個々の状態に応じた運動方法についての

指導を受け、その体験を通じ感じたことなどを受講者と医療者でいろいろな視点から話し合いました。みなさんが体験をして感じたことを言語化しそれを共有することで、明日につながる「気づき」を得られたようでした。アンケートにもご協力頂き、参加されたみなさんにとって満足度が高く、実りも多かったことが伺えました。その後、8月に自主練習の効果判定の機会を設けたところ11名の方が参加され、それまでの運動状況と体力測定の結果を比較し、感想などを話し合いました。運動の効果を実感されている方や、運動を続けることの難しさや大切さを痛感している方など様々でした。どちらの会でも印象的だったのは、参加された方々が笑顔で体を動かしお話をされている姿でした。

11月24日(月)には「食と健康」と題して減塩食について学び、理想の晩ご飯を考える教室を開催しました。

次回は2月頃を予定しております。楽しく参加できるような企画を考えていますので興味を持たれた方は是非ご参加ください!お待ちしております。

## 栄養コラム ~HOTなひとときに~

### しょうが糖

寒い季節がやってきました。今回は身体が温まる甘味のご紹介です。

しょうがの成分である『ショウガオール』には身体を温める効果があります。また、薄く切って砂糖を使うことで食べやすくなっています。

#### <作り方>

- ① 薄切りにしたしょうがを水にさらした後、水から茹でて3回茹でこぼします。
- ② 鍋にしょうが、ひたひたの水、砂糖(しょうがと同量、もしくは80%)を加えてふたをして中火にかけます。
- ③ 沸騰したらふたを取り、少し強めの弱火で煮詰め、汁気がほとんど無くなってきたら弱火



管理栄養士 福田有里

館山在住の調理スタッフが自宅で採れたしょうがを使って作りました。

#### <材料>

- しょうが
- 砂糖

にします。砂糖が白っぽく結晶化してきたら木ベラで混ぜます。

- ④ しょうがが白く、パラパラになったら、クッキングシートに重ならないようにして乾かして出来上がりです。

残った粉砂糖はお湯や冷水に溶かしてしょうがドリンクにしても美味しくいただけます♪

# News

## ISO9001 再認証



当院は、“自ら改善する仕組み”作りを目指して ISO 9001※に取り組み、2011年12月に認証機関から認証されました。現在も6ヶ月ごとに認証機関の外部審査を受けて認証が継続されています。認証有効期間は3年です。今年は、3年目の認証更新と一部内容拡大の為に審査を10月29日(水)から3日間行い再認証されました。

※ISO9001 = 国際標準化機構 (ISO) が定めた  
良質な組織運営のための評価

## 中学生職場体験



近隣の中学2年生を対象に11月5日(水)から3日間、11月11日(火)から3日間に分かれて職場体験学習が行われ、4校から10名の生徒さんが参加しました。働くことを通し交流する中で、仕事の大切さやすばらしさを知り将来の自分の職業を考える機会になればという目的でした。

体験部署は、薬剤室、看護部(病棟)、臨床検査室、リハビリテーション室、画像診断室、保育室、事務と幅広く、真新しい白衣に身を包んだ生徒さんたちは、初めての体験に緊張したり驚いたり3日間となりました。



## 防火訓練実施

10月17日(金)、院内施設を火災発生場所に想定して防火訓練を行いました。年2回の防火訓練の実施は消防法に定められています。当院では防災対策の一環として、職員に対し実践的な訓練を行い、防火意識の向上を図っています。今回も館山消防署の協力のもとに、初期消火、通報、避難、消火器や散水栓の扱い方訓練が行われましたが、中でも、レスキュー隊指導による患者搬送訓練は、職員の救助に対する知識向上に繋がりました。



## みんなで芋掘り『焼き芋会』



ひまわり保育所では、10月23日(木)にさつま芋掘り、29日(水)に焼き芋会を行いました。

5月に苗を植え、大切に育てたさつま芋。長く伸びたツルをみんなで「うんとこしょ! どっこいしょ～」と引っ張ったり、泥だらけになりながら土の中のお芋を収穫すると、大歓声が上がりました。落ち葉拾いをして焚き火をして焼き芋もしました。みんなでお芋を投げ入れ、焼き芋の歌を唄いました。「美味しくなあれ」とお祈りをしていると完成! 出来たての焼き芋を「ふ～ふ～」しながら食べ、お顔もお腹もほっこりするひと時でした。

## 編集 後記

明けましておめでとうございます。本年も『おひさまニュース』をよろしくお願いいたします。子供の頃はお正月といえば書初めをしたものですが、大人になってからはまったく縁のないイベントとなってしまいました。最近ではパソコンやスマホが便利になり、字を書く機会も随分減りました。先日久しぶりに大きな字を書く機会があり、墨をたっぷりつけた筆で本格的に書きたかったのですが、家の中を探しても筆や硯がどうしてもみつかりません。仕方なく太めの筆ペンで書くことにしました。書き順やとめ、はね、はらい、呼吸を整え集中して…なんて、字を書くことの楽しさを思い出しちょっとしたストレス解消になりました。墨のよい匂いがなかったのは残念。書いた字はその人らしさをあらわすとよく言われます。字のように自分らしい、みなさまらしい1年になりますように。

じゅんべりい